

# 四半期報告書

(第16期第2四半期)

自 平成27年1月1日

至 平成27年3月31日

株式会社アパマンショップホールディングス

東京都中央区京橋一丁目1番5号 セントラルビル

## 表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	8
(7) 議決権の状況	9
2 役員の状況	9
第4 経理の状況	10
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
四半期連結損益計算書	13
四半期連結包括利益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
2 その他	23
第二部 提出会社の保証会社等の情報	24

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年4月30日
【四半期会計期間】	第16期第2四半期（自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社アパマンショップホールディングス
【英訳名】	Apamanshop Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大村 浩次
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋一丁目1番5号 セントラルビル
【電話番号】	03（3231）8020
【事務連絡者氏名】	常務取締役 石川 雅浩
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋一丁目1番5号 セントラルビル
【電話番号】	03（3231）8020
【事務連絡者氏名】	常務取締役 石川 雅浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期連結 累計期間	第16期 第2四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成26年 3月31日	自平成26年 10月1日 至平成27年 3月31日	自平成25年 10月1日 至平成26年 9月30日
売上高 (百万円)	18,834	18,887	36,655
経常利益 (百万円)	888	520	1,439
四半期(当期)純利益又は四半 期純損失(△) (百万円)	1,177	△878	1,482
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,178	△866	1,474
純資産額 (百万円)	9,345	8,705	9,763
総資産額 (百万円)	49,732	47,543	48,551
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期純 損失金額(△) (円)	60.05	△46.04	76.74
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	53.73	—	70.64
自己資本比率 (%)	18.7	18.2	20.0
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,365	1,371	2,605
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△146	△194	△185
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	△2,000	△918	△2,978
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	2,302	2,791	2,529

回次	第15期 第2四半期連結 会計期間	第16期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日	自平成27年 1月1日 至平成27年 3月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	12.67	△41.71

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

4. 当社は、平成26年4月1日付で普通株式及びA種優先株式を1株につき10株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生したリスクはありません。  
また、第15期有価証券報告書に記載された事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）におけるわが国の経済は、政府による経済政策や日本銀行による金融政策を背景に、企業収益や雇用情勢の改善が見られる等、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、円安による輸入原材料価格の上昇やそれに伴う物価の上昇、消費税率引き上げに伴う個人消費の長期低迷等もあり、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような環境の下、当社グループは、平成27年9月期からの3年間の「第2次中期経営計画」を策定し、新たな事業成長に向けた取組みを実行してまいりました。当第2四半期連結累計期間におきましては、中期経営計画の成長戦略である賃貸住宅仲介店舗数No.1を誇る「アパマンショップ」ブランドの最大限の活用や、本業と位置づけている斡旋事業とプロパティ・マネジメント事業のシナジーによる事業の強化・拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高188億87百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益10億5百万円（前年同期比14.5%減）、経常利益5億20百万円（前年同期比41.4%減）、四半期純損失8億78百万円（前年同期11億77百万円の四半期純利益）となりました。

事業のセグメント別業績は次のとおりであります。

#### (斡旋事業)

賃貸斡旋を直営店で展開する賃貸斡旋業務は、主に連結子会社である㈱アパマンショップリーシングが担当しております。当第2四半期連結会計期間末で同社が運営する直営店は、契約ベース89店舗（前年同期比7店舗増）となりました。

当第2四半期連結累計期間では、各種キャンペーンの推進、WEBサイトへの適正かつ情報量を充実させた物件掲載による反響件数・契約件数の増大や、本部が推進するインターネット回線・保険等の取次ぎ、消臭抗菌剤や、簡易消火用具の販売等を積極的に展開してまいりました。

また、準管理（賃貸借契約期間の期日管理及び退去後リフォーム等を中心に不動産オーナーから受託する形態）物件の提案・推進活動の結果、当第2四半期連結会計期間末で受託戸数は79,812戸となりました。

賃貸斡旋をフランチャイズで展開する賃貸斡旋FC業務は、連結子会社である㈱アパマンショップネットワークが担当しており、賃貸住宅仲介店舗数における「業界No.1」の不動産情報ネットワーク「アパマンショップ」を最大の強みとし、当第2四半期連結会計期間末の賃貸斡旋加盟契約店舗数で1,140店舗（直営店含む・加盟契約ベース、前年同期比59店舗増）を展開しております。

当第2四半期連結累計期間は、前連結会計年度に引き続き、FC加盟店への集客対策として全国統一施策を実施しております。まず、平成26年11月より、世界的にも人気の高いスペインプロサッカーチームのFCバルセロナとスポンサー契約を締結し、FCバルセロナを起用した大型プロモーションを実施いたしました。また、プロモーションの一環として、平成26年12月より、FCバルセロナを起用した新CMの放送を開始いたしました。更に、FCバルセロナのオリジナルグッズをプレゼントするキャンペーンを実施いたしました。

その他にも集客対策の各種キャンペーンを引き続き実施し、幅広いお客様層へのアパマンショップブランドの訴求、反響数の拡大を図っております。

また、㈱ロイヤリティマーケティングとの提携により、店頭でのご来店、ご成約時にPontaポイントを付与するサービス、特定物件において、毎月の家賃支払時にPontaポイントが付与されたり、ご成約時に特別Pontaポイントとして通常より多くポイントが付与される「アパマンPonta部屋」や㈱ベネフィット・ワンとの提携により15万件ものお得なサービス提供に加え、様々な機能を満載した入居者向けポータルサイト「アパマン友の会」のサービスも引き続き展開しております。

更に、FC加盟店に対しましては、地域別に配置した加盟店支援スタッフ（OFC：オペレーションフィールドカウンセラー）による店舗訪問、経営幹部も参加するFC加盟企業との会議を全国で定期的開催、外部講師も交えた様々な勉強会を実施する等、FC加盟店代表者及び現場スタッフとのコミュニケーション強化並びに前述のキャンペーンも含めたサービスの浸透・店舗スタッフのサービス向上を引き続き強化いたしました。研修サービスに

おきましては、OFCによる店舗指導、直営店での店長研修に加え、合宿型の集合研修や斡旋実務に店舗経営の部分まで踏み込んだ加盟店向け営業利益コンサルティングサービス等を実施し、研修制度の充実と店舗スタッフのサービス向上に引き続き取り組んでおります。

その他、アパマンショップトータルシステム（ATS）におきましては、店舗における賃貸斡旋業務をサポートするアパマンショップオペレーションシステム（AOS）の登録物件数が当第2四半期連結会計期間末で11,572,303件（前年同期比1,364,268件増）となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の斡旋事業の売上高は60億17百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は9億50百万円（前年同期比9.8%減）となりました。

#### （プロパティ・マネジメント事業）

賃貸管理業務及びサブリース業務は、主に連結子会社である㈱アパマンショップリーシング及び㈱アパマンショップサブリースが担当しております。引き続き入居率向上や原価低減策の収益性の向上への取組みを強化するとともに、関連サービス業務の拡大にも努めてまいりました。また、「アパマンショップ」で展開する各種キャンペーンを活用した退去時リフォーム等のリノベーション、インターネット回線等の設置、生活関連商品販売の提案等、不動産オーナーへの訪問活動を強化・推進する等、取引拡大及び満足度向上を図り、サービスと収益の向上に注力いたしました。

当第2四半期連結会計期間末の管理戸数は合計60,931戸（前年同期比1,086戸増（管理戸数内訳：賃貸管理戸数33,462戸、サブリース管理戸数27,469戸））となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のプロパティ・マネジメント事業の売上高は118億円（前年同期比0.8%減）、営業利益は5億74百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

#### （P I・ファンド事業）

投資不動産業務は、当社グループが保有している不動産の入居率向上及び経費削減等により、家賃収入の収益性の向上に努めてまいりました。

なお、本事業におきましては、当社グループの保有不動産の売却を行ってきており、当該事業規模は縮小しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間のP I・ファンド事業の売上高は9億27百万円（前年同期比0.7%減）、営業利益は24百万円（前年同期比27.7%減）となりました。

#### （その他事業）

当第2四半期連結累計期間のその他事業の売上高は5億55百万円（前年同期比75.5%増）、営業損失は1億98百万円（前年同期14百万円の営業損失）となりました。

### （2）財務状態の分析

資産合計は前連結会計年度末に比べ10億7百万円減少し、475億43百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、前払費用並びに未収入金の増加、繰延税金資産及びのれんの減少によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ49百万円増加し、388億37百万円となりました。この主な要因は、買掛金、短期借入金、預り金、家賃預り金及びリース未払金の増加、長期借入金の減少によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ10億57百万円減少し、87億5百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金の減少によるものであります。

### （3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ2億62百万円増加し、27億91百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による収入は13億71百万円（前年同期比0.5%増）となりました。この主な要因は、仕入債務の増加額62百万円の増加、未払金の増減額の差額93百万円の増加、税金等調整前当期利益3億78百万円の減少、持分法による投資利益1億39百万円の減少、利息の支払額48百万円の減少、法人税等の支払額70百万円の減少等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による支出は1億94百万円(前年同期比32.6%増)となりました。この主な要因は、定期預金の払戻による収入74百万円の減少、有形固定資産の売却による収入70百万円の減少、関係会社株式取得による支出84百万円の減少等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による支出は9億18百万円(前年同期比54.1%減)となりました。この主な要因は、短期借入れによる収入10億50百万円の増加、短期借入金の返済による支出7億円の増加、長期借入れによる収入197億73百万円の増加、長期借入金の返済による支出197億26百万円の増加、新株予約権の行使による株式の発行による収入1億37百万円の減少、自己株式の取得による支出8億17百万円の減少等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	41,350,000
A種優先株式	6,545,460
計(注)	41,350,000

(注) 当社の発行可能株式総数は41,350,000株であり、普通株式の発行可能種類株式総数及びA種優先株式の発行可能種類株式総数の合計数とは異なります。

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年4月30日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	14,198,060	14,198,060	㈱東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(注) 2
A種優先株式	6,545,460	6,545,460	非上場	(注) 2、3
計	20,743,520	20,743,520	—	—

(注) 1. 「提出日現在発行数」の欄には、平成27年4月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2. 当社は、普通株式の単元株式数を100株、A種優先株式の単元株式数を1株とする単元株制度を採用しております。

3. A種優先株式の内容は次のとおりであります。

###### (1) 剰余金の配当

当社は、普通株式を有する株主（以下「普通株主」という。）及び普通株式の登録株式質権者（以下「普通登録株式質権者」という。）に対して剰余金の配当を行うときは、当該剰余金の配当に係る基準日の最終の株主名簿に記載又は記録されたA種優先株式を有する株主（以下「A種優先株主」という。）又はA種優先株式の登録株式質権者（以下「A種優先登録株式質権者」という。）に対し、A種優先株式1株につき、普通株式1株当たりの配当額と同額の剰余金の配当を普通株主及び普通登録株式質権者に対する剰余金の配当と同順位にて行う。

###### (2) 残余財産の分配

当社は、残余財産を分配するときは、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株当たり、(a) 普通株式1株当たりの時価、(b) IRR30%相当額又は(c) 8,250円（ただし、A種優先株式につき、株式の分割、株式無償割当て、株式の併合又はこれに類する事由があった場合には、適切に調整される。）のうち、最も高い金額に相当する額の残余財産の分配を行う。

「普通株式1株当たりの時価」及び「IRR30%相当額」については、以下にそれぞれ記載された定義に従い計算する。

###### ①普通株式1株当たりの時価

「普通株式1株当たりの時価」とは、残余財産の分配が行われる日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の㈱東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値（気配表示を含む。）の平均値（終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。）とする。

###### ②IRR30%相当額

「IRR30%相当額」とは、次の算式に従って算出される額とする。

$$\text{IRR30\%相当額} = 2,750 \text{円} \times P$$

「P」=1.3をmを指数として累乗した数

「m」=p（以下に定義する。）+（p'（以下に定義する。）÷365）（小数点以下第4位を切り捨てる。）

「p」とは、平成23年3月30日（同日を含む。）から残余財産の分配が行われる日（同日を含む。）までの期間を「p年とp'日」とした場合のpをいう。

「p'」とは、平成23年3月30日（同日を含む。）から残余財産の分配が行われる日（同日を含む。）までの期間を「p年とp'日」とした場合のp'をいう。

A種優先株式につき、株式の分割、株式無償割当て、株式の併合又はこれに類する事由があった場合には、適切に調整される。

A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対しては、上記のほか残余財産の分配を行わない。

(3) 議決権

A種優先株主は、株主総会における議決権を有しない。

(4) 株式の併合又は分割及び株式無償割当て

①分割又は併合

当社は、株式の分割又は併合を行うときは、普通株式及びA種優先株式の種類ごとに、同時に同一の割合で行う。

②株式無償割当て

当社は、株式無償割当てを行うときは、普通株式及びA種優先株式の種類ごとに、当該種類の株式の無償割当てを、同時に同一の割合で行う。

(5) 普通株式を対価とする取得請求権

A種優先株主は、平成24年3月30日以降、いつでも、法令の定める範囲内において、当社に対し、普通株式の交付と引換えに、その有するA種優先株式の全部又は一部を取得することを請求することができるものとし、当社は、当該請求に係るA種優先株式1株を取得するのと引換えに、当該A種優先株主に対して普通株式1株を交付する。

(6) 金銭を対価とする取得条項

当社は、平成24年3月30日以降、いつでも、当社が別に定める日の到来をもって、法令の定める範囲内において、A種優先株式の全部又は一部を取得することができるものとし、当社は、A種優先株式を取得するのと引換えに、A種優先株主に対して、A種優先株式1株につき、普通株式1株当たりの時価相当額の金銭を交付する。「普通株式1株当たりの時価」については、(2)①の定義により計算するが、「残余財産の分配が行われる日」を「取得日」と読み替えて計算する。なお、A種優先株式の一部を取得するときは、比例按分の方法による。

(7) 種類株主総会における議決権

当社が、普通株式、他の種類の株式又は新株予約権、新株予約権付社債その他の潜在的株式の発行又は処分（A種優先株式に係る取得請求権の行使による又は取得条項に基づく普通株式の交付及びA種優先株式の発行時点で残存する新株予約権の行使による普通株式の交付を除く。）を法令又は定款で定める決定機関で決議する場合には、当該決議の他、当社のA種優先株主を構成員とする種類株主総会の決議を要する。

(8) 会社法第322条第2項に規定する定款の定めの有無

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年1月1日～ 平成27年3月31日	—	20,743,520	—	7,311	—	113

## (6) 【大株主の状況】

平成27年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
インテグラル1号投資事業有限責任 組合	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	5,355,460	25.82
大村 浩次	東京都中央区	2,635,960	12.71
(株)アパマンショップホールディングス	東京都中央区京橋1丁目1-5 セントラルビル	1,674,247	8.07
三光ソフランホールディングス(株)	東京都中央区八重洲1丁目3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル13F	847,890	4.09
ジャパンベストレスキューシステム (株)	愛知県名古屋市中区鶴舞2丁目17番17号	705,670	3.40
(株)ポエムホールディングス	東京都中央区京橋1丁目1-5	647,790	3.12
アパマンショップホールディングス 取引先持株会	東京都中央区京橋1丁目1-5 セントラルビル	410,120	1.98
(株)クリーク・アンド・リバー社	東京都千代田区麹町2丁目10-9 C&Rグループビル	215,330	1.04
(株)MGファシリティーズ	東京都品川区東五反田2丁目2番16号	193,790	0.93
ワールド・キャピタル(株)	東京都日野市多摩平1丁目10番3号	186,060	0.90
計	—	12,872,317	62.05

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位10名は、以下のとおりであります。

平成27年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する所有議 決権数の割合 (%)
大村 浩次	東京都中央区	26,359	19.57
三光ソフランホールディングス(株)	東京都中央区八重洲1丁目3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル13F	8,478	6.30
ジャパンベストレスキューシステム (株)	愛知県名古屋市中区鶴舞2丁目17番17号	7,056	5.24
(株)ポエムホールディングス	東京都中央区京橋1丁目1-5	6,477	4.81
アパマンショップホールディングス 取引先持株会	東京都中央区京橋1丁目1-5 セントラルビル	4,101	3.05
(株)クリーク・アンド・リバー社	東京都千代田区麹町2丁目10-9 C&Rグループビル	2,153	1.60
(株)MGファシリティーズ	東京都品川区東五反田2丁目2番16号	1,937	1.44
ワールド・キャピタル(株)	東京都日野市多摩平1丁目10番3号	1,860	1.38
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行 (株))	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	1,787	1.33
平野 修	静岡県浜松市中区	1,643	1.22
計	—	61,851	45.93

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 6,545,460	—	A種優先株式の内容は、「1 株式等の状況」の「(1) 株式の総数等」の「②発行済株式」の注記に記載されております。
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 484,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 13,466,500	134,665	—
単元未満株式	普通株式 247,360	—	—
発行済株式総数	20,743,520	—	—
総株主の議決権	—	134,665	—

(注) 「単元未満株式」欄の「株式数」には、自己株式が47株含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(株)アパマンショップホールディングス	東京都中央区京橋一丁目1番5号セントラルビル	484,200	—	484,200	2.33
計	—	484,200	—	484,200	2.33

(注) 1. 上記に記載されたものは普通株式であり、発行済株式総数に対する所有株式数の割合も、普通株式について計算しております。

2. 上記のほか、無議決権株式であるA種株式のうち、当社所有の自己株式1,190,000株があります。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,535	2,798
受取手形及び売掛金	1,411	1,615
商品	31	51
原材料及び貯蔵品	120	130
短期貸付金	14	21
繰延税金資産	1,276	1,024
その他	1,230	1,572
貸倒引当金	△34	△42
流動資産合計	6,587	7,171
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,542	5,442
土地	11,573	11,573
その他（純額）	225	320
有形固定資産合計	17,342	17,336
無形固定資産		
のれん	12,701	12,130
その他	449	459
無形固定資産合計	13,150	12,590
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,066	2,060
繰延税金資産	6,796	5,806
その他	3,319	3,295
貸倒引当金	△710	△716
投資その他の資産合計	11,471	10,445
固定資産合計	41,964	40,372
資産合計	48,551	47,543
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	804	1,245
短期借入金	—	350
1年内返済予定の長期借入金	2,066	2,065
未払法人税等	146	130
賞与引当金	5	4
賃貸管理契約損失引当金	19	15
その他	4,058	4,350
流動負債合計	7,100	8,160
固定負債		
長期借入金	26,917	25,878
賃貸管理契約損失引当金	10	12
退職給付に係る負債	110	120
資産除去債務	116	113
長期預り敷金	1,669	1,638
長期預り保証金	2,706	2,709
その他	156	203
固定負債合計	31,687	30,677
負債合計	38,788	38,837

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,311	7,311
資本剰余金	2,863	2,862
利益剰余金	2,233	1,164
自己株式	△2,714	△2,713
株主資本合計	9,694	8,625
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	17
為替換算調整勘定	3	8
その他の包括利益累計額合計	22	25
新株予約権	9	9
少数株主持分	36	44
純資産合計	9,763	8,705
負債純資産合計	48,551	47,543

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
売上高	18,834	18,887
売上原価	13,779	13,667
売上総利益	5,055	5,220
販売費及び一般管理費	※ 3,878	※ 4,215
営業利益	1,176	1,005
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	1	0
金利スワップ評価益	13	14
持分法による投資利益	164	24
雑収入	22	7
営業外収益合計	202	48
営業外費用		
支払利息	327	306
支払手数料	96	198
株式交付費	0	—
雑損失	65	28
営業外費用合計	490	533
経常利益	888	520
特別利益		
固定資産売却益	12	—
投資有価証券売却益	2	—
債務免除益	44	—
その他	1	—
特別利益合計	60	—
特別損失		
固定資産売却損	45	—
固定資産除却損	8	1
投資有価証券売却損	0	—
店舗閉鎖損失	4	3
持分変動損失	4	12
リース解約損	1	1
その他	4	0
特別損失合計	68	19
税金等調整前四半期純利益	879	501
法人税、住民税及び事業税	139	129
法人税等調整額	△442	1,242
法人税等合計	△303	1,372
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,182	△870
少数株主利益	5	7
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,177	△878

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	1,182	△870
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	1
為替換算調整勘定	-	5
その他の包括利益合計	△3	4
四半期包括利益	1,178	△866
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,173	△874
少数株主に係る四半期包括利益	5	8

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	879	501
減価償却費	257	275
のれん償却額	568	576
株式交付費	0	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	41	16
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1	△1
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	8	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	9
受取利息及び受取配当金	△3	△2
支払利息	327	306
持分変動損益 (△は益)	4	12
持分法による投資損益 (△は益)	△164	△24
固定資産除却損	8	1
債務免除益	△44	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△2	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	33	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△163	△198
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△17	△24
仕入債務の増減額 (△は減少)	367	430
未払金の増減額 (△は減少)	△52	40
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	△35	△27
その他	△107	△140
小計	1,909	1,751
利息及び配当金の受取額	3	48
利息の支払額	△331	△283
法人税等の支払額	△215	△145
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,365	1,371
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3	—
定期預金の払戻による収入	74	—
有形固定資産の取得による支出	△149	△104
有形固定資産の売却による収入	70	—
無形固定資産の取得による支出	△101	△78
投資有価証券の取得による支出	△29	△21
投資有価証券の売却による収入	36	—
関係会社株式の取得による支出	△84	—
関係会社株式の取得による収入	—	8
貸付金の回収による収入	12	0
敷金及び保証金の差入による支出	△24	△3
敷金及び保証金の回収による収入	46	14
その他	5	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△146	△194

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	1,050
短期借入金の返済による支出	—	△700
長期借入れによる収入	468	20,241
長期借入金の返済による支出	△1,570	△21,297
株式の発行による支出	△0	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	137	—
自己株式の取得による支出	△818	△0
配当金の支払額	△192	△189
その他	△23	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,000	△918
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△781	262
現金及び現金同等物の期首残高	3,083	2,529
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,302	※ 2,791

**【注記事項】**

(追加情報)

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については33.1%に、平成28年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、32.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は469百万円減少し、法人税等調整額が469百万円増加しております。

また、欠損金の繰越控除制度が平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から繰越控除前の所得の金額の100分の65相当額に、平成29年4月1日以後に開始する連結会計年度から繰越控除前の所得の金額の100分の50相当額に控除限度額が改正されたことに伴い、繰延税金資産の金額は424百万円減少し、法人税等調整額は424百万円増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成26年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)	
住宅ローン利用者(10名)	4百万円	住宅ローン利用者(10名)	4百万円
計	4百万円	計	4百万円

過年度において当社グループが販売した不動産購入者が、提携金融機関から借入を行ったものにつき債務保証を行っております。なお、新規取扱は行っておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

※販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
給料手当	1,639百万円	1,819百万円
賞与引当金繰入額	1百万円	－百万円
退職給付引当金繰入額	17百万円	－百万円
退職給付費用	－百万円	23百万円
貸倒引当金繰入額	14百万円	16百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	2,309百万円	2,798百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	△6百万円	△6百万円
現金及び現金同等物	2,302百万円	2,791百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会決議	普通株式	130	100	平成25年9月30日	平成25年12月24日	資本剰余金
平成25年10月31日 取締役会決議	A種優先株式	65	100	平成25年9月30日	平成25年12月24日	資本剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年10月31日開催の取締役会決議及び平成25年12月20日開催の定時株主総会決議により資本準備金1,679百万円をその他資本剰余金に、利益準備金234百万円を繰越利益剰余金に振り替え、その後その他資本剰余金3,395百万円を繰越利益剰余金に振り替えました。

この結果を踏まえて当第2四半期連結会計期間末において、繰越利益剰余金が1,927百万円となっております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月30日 取締役会決議	普通株式	137	10	平成26年9月30日	平成26年12月22日	利益剰余金
平成26年10月30日 取締役会決議	A種優先株式	53	10	平成26年9月30日	平成26年12月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	幹旋事業	プロパティ・マネ ジメント 事業	P I・フ アンド事 業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,755	11,872	907	18,536	297	18,834	—	18,834
セグメント間の内部 売上高又は振替高	246	20	26	293	18	312	△312	—
計	6,002	11,893	934	18,830	316	19,146	△312	18,834
セグメント利益又は 損失(△)	1,053	620	33	1,708	△14	1,693	△517	1,176

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング業務・S O H O業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△517百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	幹旋事業	プロパティ・マネジメント事業	PI・ファンド事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,755	11,790	846	18,392	495	18,887	—	18,887
セグメント間の内部 売上高又は振替高	262	9	81	353	59	412	△412	—
計	6,017	11,800	927	18,745	555	19,300	△412	18,887
セグメント利益又は 損失 (△)	950	574	24	1,548	△198	1,349	△344	1,005

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング業務・SOHO業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△344百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社費用であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (△)	60円5銭	△46円4銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額 (△) (百万円)	1,177	△878
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は 普通株式に係る四半期純損失金額 (△) (百万円)	1,177	△878
普通株式の期中平均株式数 (千株)	19,602	19,069
普通株式	13,259	13,714
普通株式と同等の株式：A種優先株式	6,342	5,355
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	53円73銭	—
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円) (関連会社における新株予約権が権利行使された場 合の、親会社持分比率変動によるもの)	△9	—
普通株式増加数 (千株)	2,127	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 1. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2. 当社は、平成26年4月1日付で普通株式及びA種優先株式を1株につき10株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△) 及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成27年4月30日

株式会社アパマンショップホールディングス

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 森内茂之 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 渡邊 誠 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アパマンショップホールディングスの平成26年10月1日から平成27年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アパマンショップホールディングス及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。